

「太陽光発電所」再生エネと福祉連携 銀座ミツバチプロジェクト

2019年11月11日 09時50分



グリーンケアハイツの屋根に設置された太陽光発電のパネル

東京・銀座のビル街でミツバチを飼育する、NPO法人銀座ミツバチプロジェクト（東京）は9日、会津美里町の介護老人保健施設グリーンケアハイツの屋根を利用した太陽光発電所の開所式を同町で行った。

取り組みは、同NPOが昨年9月に福島市荒井に開所した発電所の第2弾。今回は、エネルギーと福祉の連携と銘打ち、屋根に288枚のパネルを設置。発電容量は49.5キロワットで、想定年間発電量は一般家庭の電気使用量約18軒分に相当する約10万3000キロワット時を想定している。

定している。

発電された電気は首都圏に売電される。施設側は屋根の賃借料の代わりに、取り組みの一環で栽培している県産農産物などを対価として受け取る。

田中淳夫同NPO理事長は「（売電を通じて）再生エネの普及と、福島と首都圏の間で顔の見える関係を築いていきたい」と展望を語り、施設を運営する医療法人社団平成会の山内一枝事業本部長は「発電した電気を施設で活用すればエネルギーの地産地消につながる」と話した。

開所式では、主催者の田中理事長があいさつ。渡部英敏町長、山内事業本部長、会津太陽光発電の折笠哲也社長が祝辞を述べた。